

新しい牧草品種の紹介

作物科 出口 健三郎

(E-mail:deguchi-kenzaburo@hro.or.jp)

平成21年度に北海道優良品種として認められ根釧地域で利用可能な品種を紹介します。

1. チモシー「北見25号」

北見農試育成の採草用品種で、長らく主役を務めてきた「ノサップ」に代わる早生の新品种です。長所は①多収(特に2番草)、②斑点病抵抗性、③耐倒伏性の3点です。2番草での再生が旺盛なため、アカクローバとの混播においても競合力が強く、安定的な植生を維持してくれそうです。

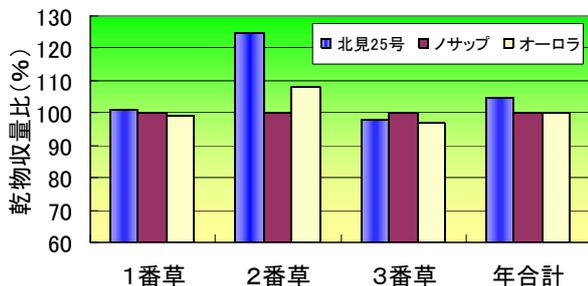


図1 「北見25号」の番草別乾物収量 (ノサップ比, 3ヶ年平均)

2. チモシー「SBT0308」

雪印種苗が育成した中生の品種です。出穂は「キリタツプ」より6日早く、中生の中ではかなり出穂の早いタイプになります。特徴は①多収、②斑点病抵抗性、③混播適性が良好(競合力が優れる)、という3点です。特に図3に示すように、マメ科率を低く抑えられるにもかかわらず、収量が落ちず、むしろキリタツプ比103%という特性を示しました。

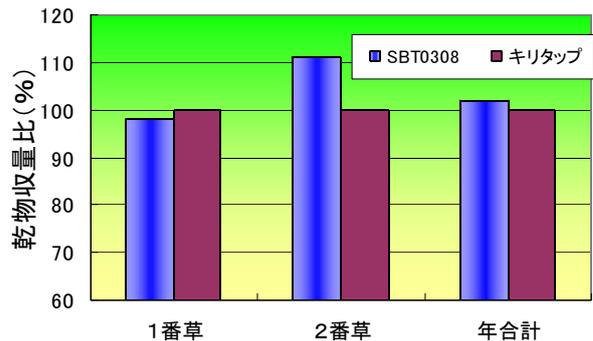


図2 「SBT0308」の番草別乾物収量 (「キリタツプ」比, 2ヶ年平均)



「ノサップ」 「北見25号」
 写真1 1番草における倒伏状況

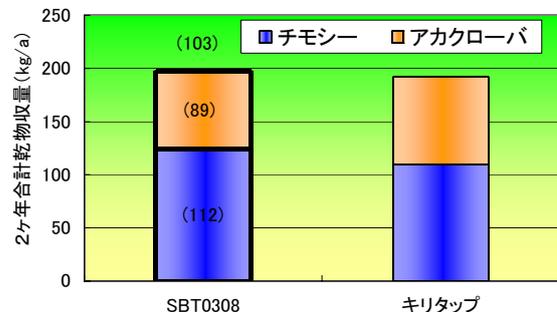


図3 アカクローバ混播条件下における乾物収量 (天北支場, 2ヶ年の合計(.)内は「キリタツプ」比%)

3. チモシー「SBT0310」

雪印種苗が育成した中生の品種です。出穂は「キリタツプ」より4日早く、「SBT0308」よりはやや遅いタイプになります。特徴は①多収、②斑点病抵抗性、③耐倒伏性がやや優れる、④多刈り(放牧利用)において多収、という4点です。「SBT0308」との使い分けが微妙ですが、放牧利用ならこちら、兼用、採草利用でマメ科もしっかり混播したいなら「SBT0308」でしょうか。中生は各社ラインナップが充実してきましたので、「どれを使うか迷う。」とのうれしい悲鳴が聞こえてきそうです。

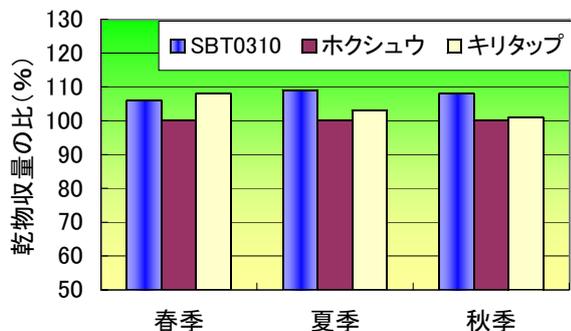
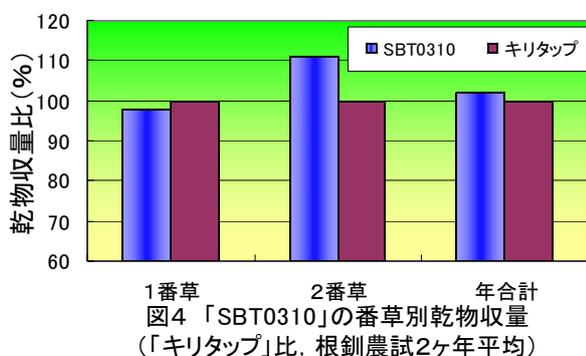


図5 多刈りでの季節別乾物収量の「ホクシュウ」比(2ヶ年平均, 春季:5~6月、夏季:7~8月、秋季:9~10月)

4. アカクローバ「北海13号」

北農研センターが育成した採草混播用のアカクローバ品種です。永続性に優れ、4、5年目でもアカクローバ収量を既存品種より高く維持できることが特徴です。これまでの「ナツユウ」と比較すると競合力が強いので、根釧ではチモシー極早生から早生品種との組み合わせに使えますが、チモシー中生との混播にはお勧めできません。

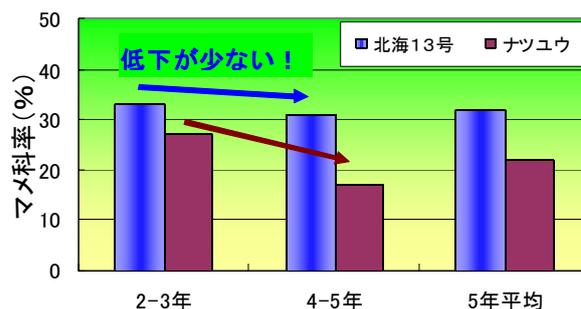


図6 チモシーとの混播における「北海13号」のマメ科率推移(根釧農試)



写真1 「ナツユウ」 「北海13号」
追播4年目におけるアカクローバの定着状況

今回紹介した新品種はいずれも平成24年以降の販売となります。流通まで今しばらく時間がありますが、ご期待下さい。